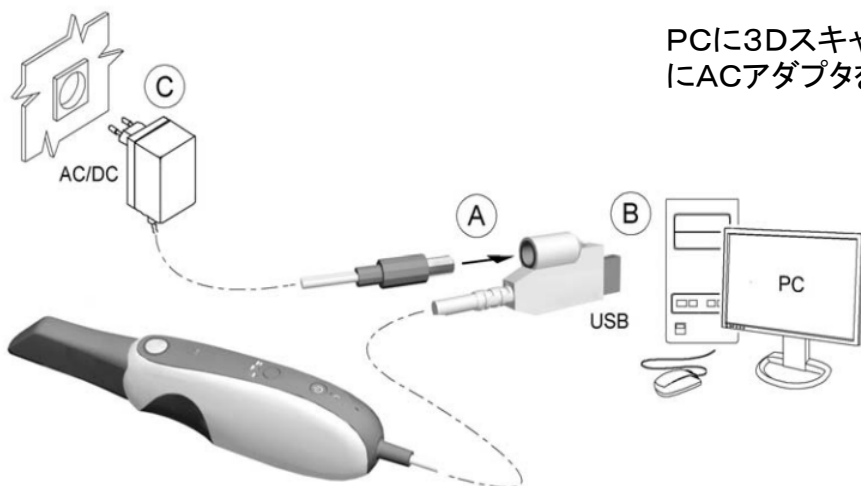
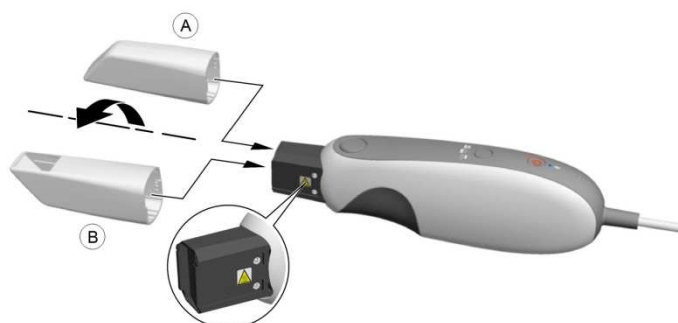


Trophy 3Dスキャナ 操作マニュアル



PCに3Dスキャナ本体のUSBとUSBコネクタの上にACアダプタを接続します。



左図のように、チップを差し込みます。上下の向きはどちらでもスキャンできます。

チップはしっかり奥まで差し込みます。奥まで刺さっていない場合、3Dスキャナが認識されない場合があります。



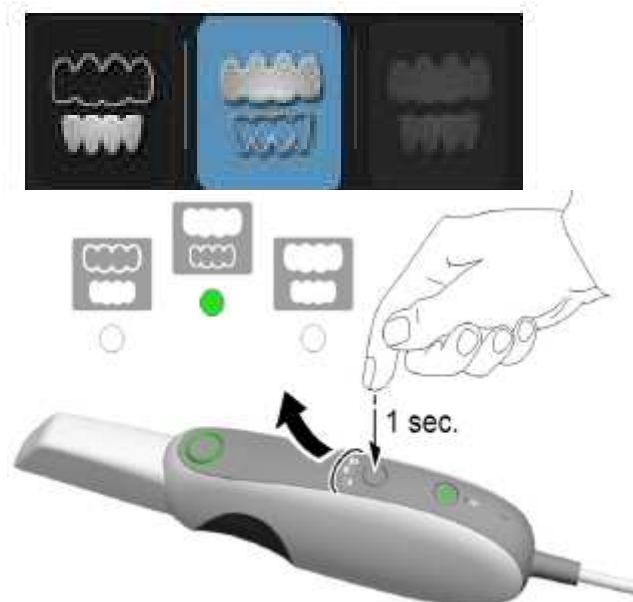
患者さんのフォルダに入り、赤枠部分のアイコンをクリックします。メッセージが出てきた場合、OKをクリックします。



右上のオプションから、自動でスキャンするモードとボタンを押してスキャンするモードを設定できます。使いやすいスキャン方法を選べます。

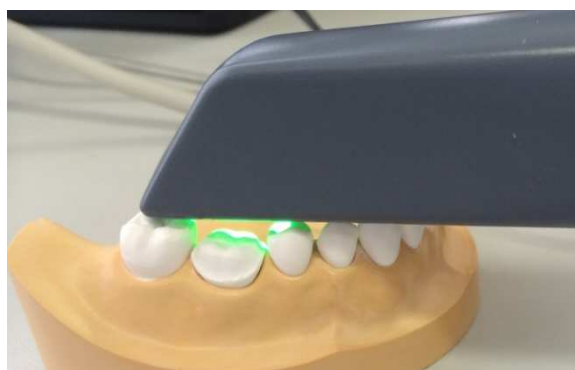
細かな設定は以下の通りです。

- 自動キャプチャ：選択すると、自動画像取得が有効になります。スライダをクリックして画像取得の感度を調整します。
- フィードバックシステムの使用：選択すると、整列ガイド、保護ライト、および画像取得ボタンの周囲のLEDリングが有効になります。
- キャプチャピープ音：選択すると、スキャンを試行するたびにピープ音が有効になります。
- 既定の画像取得モード：常に最初にスキャンする額を選択します。



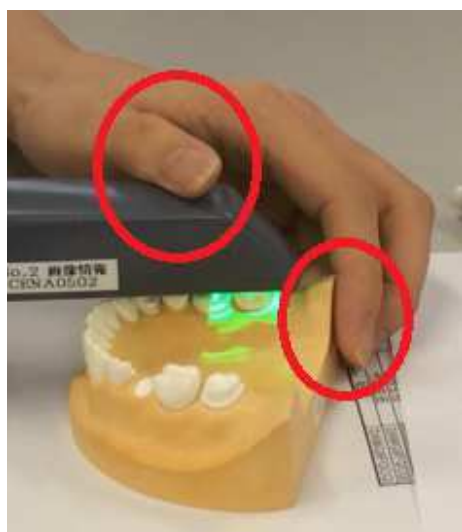
画面上のアイコンから、上下どちらの模型をスキャンするかを選択します。

または、スキャナ本体のボタンからも切り替えることができます。



模型をスキャンしていきます。

まず、咬合面からスキャンしていきます。チップを歯牙にあてます。



指で模型とスキャナを固定して手振れが起きないようにするとスムーズにスキャンできます。

スキャンした際に、画面右上に下記のいずれかのアイコンが出ます。



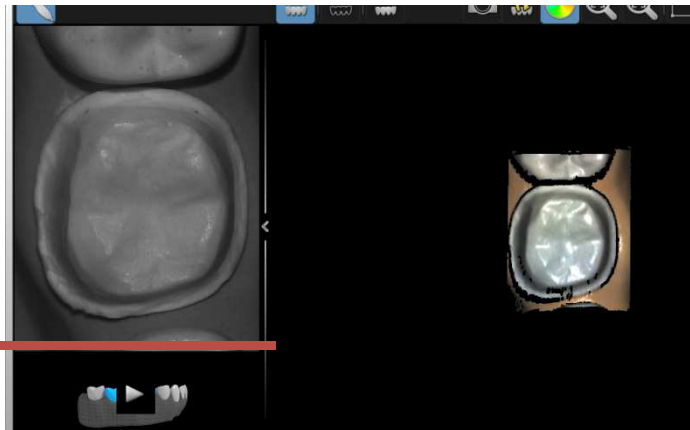
画像取得成功アイコン：画像が正常に取得されたことを示します。



変動による画像取得失敗アイコン：Trophy 3DI が不安定だったことを示します。画像を再取得します。



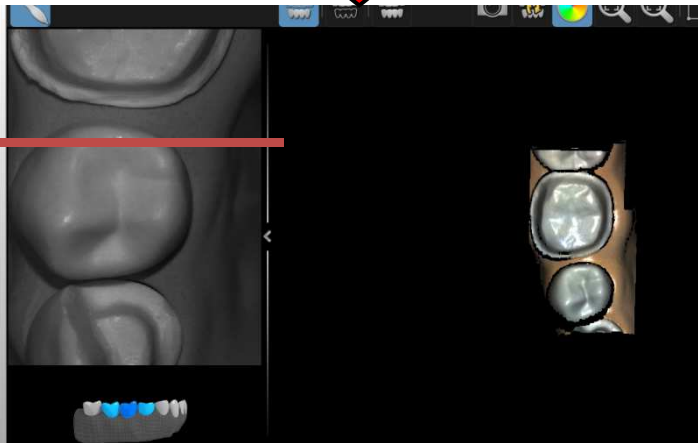
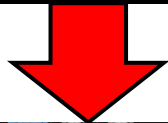
画像取得失敗アイコン：最後の画像と最新の画像の間にオーバーラップが十分でないことを示します。画像を再取得して以前の歯とのオーバーラップが約 30% あることを確認します。



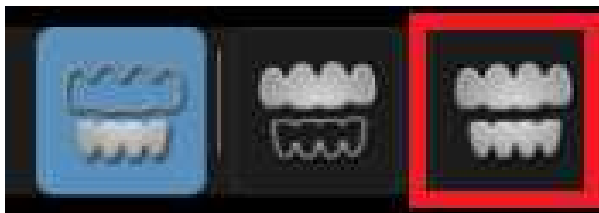
スキャンを続けていくには、前回撮影したところと、最低30%は重なっている必要があります。

スキャンする目安は、支台歯と両隣在歯を含めた3歯分です。

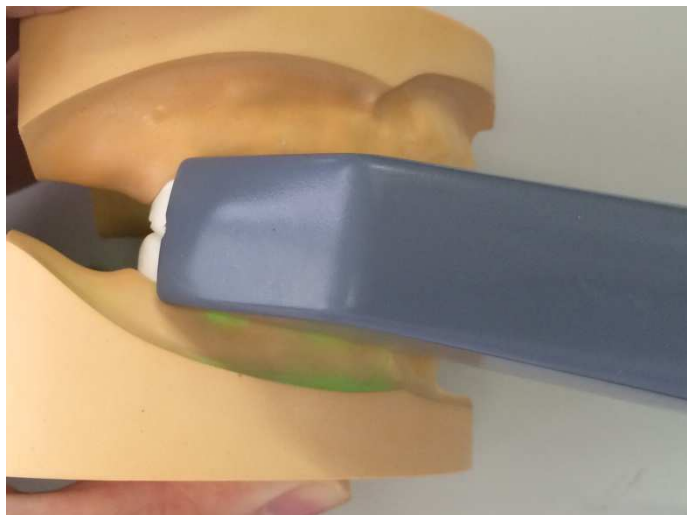
咬合面のスキャン終了後、頬側、舌側のスキャンに移ります。



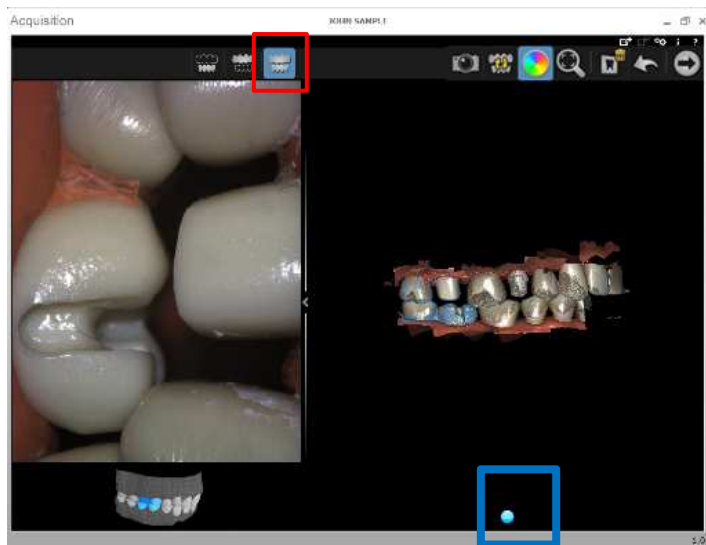
斜め45度に傾け、頬舌側をスキャンしていきます。支台歯はなるべく穴がないように重点的にスキャンします。



上下顎のスキャン終了後、咬合のスキャンを行います。
まず、赤枠部分をクリックするか、カメラのボタンで咬合スキャンの画面に切り替えます。

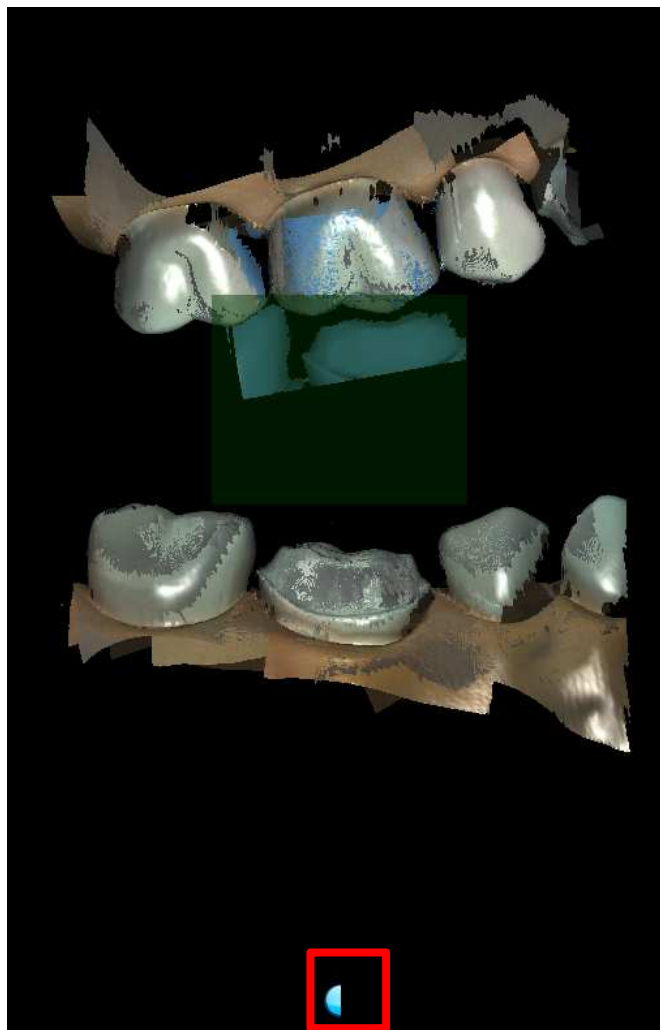


上下顎をかみ合わせた状態で頬側からスキャンしていきます。



支台歯とその対合歯がなるべく多く移る位置にチップを持っていきます。

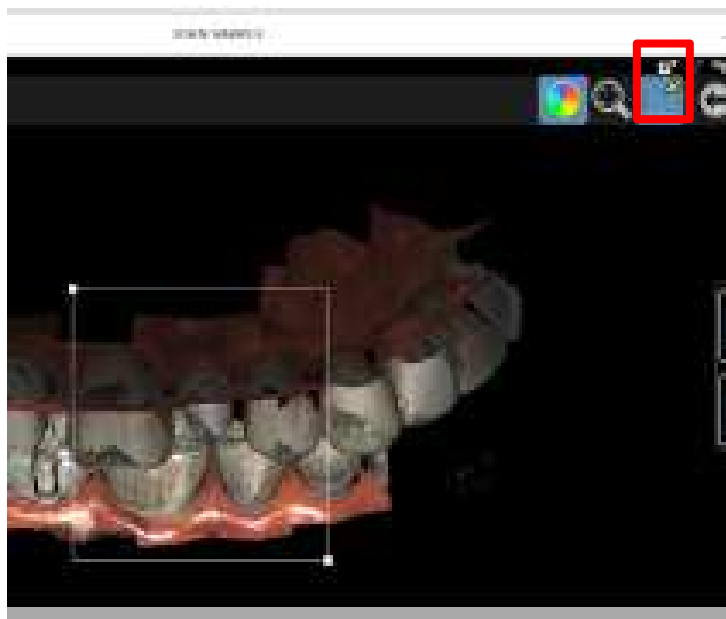
画面下に青い丸(青枠部分)ができれば成功です。



半丸の時(赤枠部分)は、緑色の方が多く写るように調節してスキャンし直します。成功すると、丸になります。

丸は6つまでつくることができ、増やすごとに咬合の再現精度が向上しますが、クラウンの場合、1つで十分です。

成功後、一番右上の矢印をクリックします。



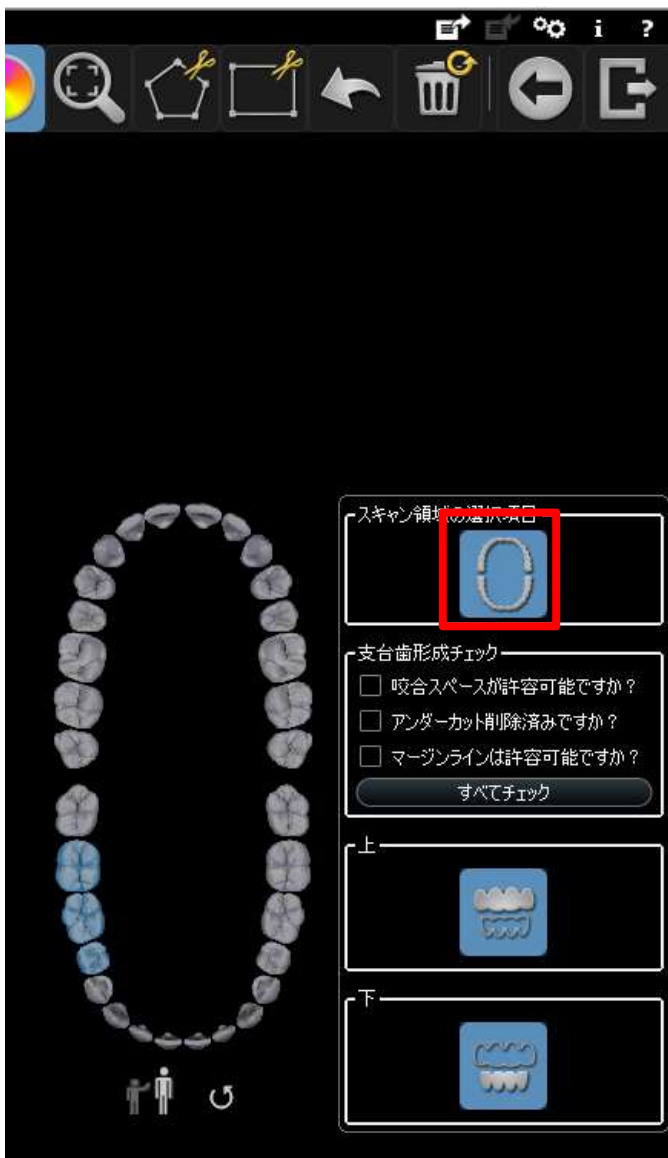
スキャン領域が大きいときに、トリミングが必要な場合があります。

その際は、赤枠部分をクリックし、支台歯と両隣在歯(上下顎)を目安にドラックします。

選択部分に問題がなければ、右上の矢印をクリックします。

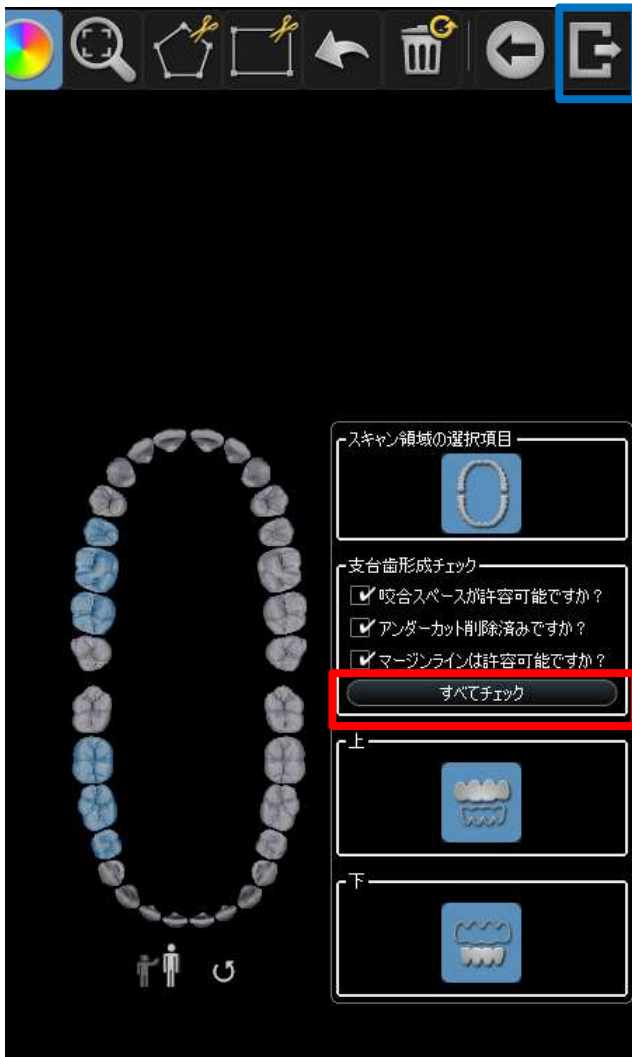


黄色の枠の部分は、ソフトが歯牙の形態を計算し、自動修復してくれた部分です。



赤枠部分をクリックすると、上下の歯列が表示されます。

スキャンしたすべての歯牙をクリックし、色を付けます。



すべてチェック(赤枠部分)をクリックします。

最後に青枠部分をクリックすると、患者さんのフォルダに保存されます。

履歴から、一番右のModelタブの中にデータが入っています。ダブルクリックするとリストアがたちあがり、デザインの工程に入ります。